

高速の先端顕微鏡で拠点

金沢大が稼働 薬など実用化研究

金沢大学は19日、同大が開発した高速の原子間力顕微鏡（AFM）を使い医薬品などの実用化を目指す研究組織「バイオAFM先端研究センター」を本格稼働した。

研究域の安藤敏夫教授ら研究グループが開発。たんに質の一種を1秒間に33コマと従来より約千倍の速度で撮影できる。

センターに計4部門に分かれる。部門ごとに国内外の研究機関や製薬会社などと共同研究する。

1日付で設置した同センターは、顕微鏡の解像度を高める「超解像AFM研究開発部門」のほか、「イメージング研究部門」「高速AFM研究開発部門」「分子細胞研究

センターは、顕微鏡の解像度を高める「超解像AFM研究開発部門」のほか、「イメージング研究部門」「高速AFM研究開発部門」「分子細胞研究

センターに計4部門に分かれる。部門ごとに国内外の研究機関や製薬会社などと共同研究する。

安藤教授の研究グループは10日付の英科学誌ネイチャー電子版にたんぱく質の分子を高速の動画で撮影することに成功したとの論文を発表した。



先端研究センターの看板を掲げる中村信一学長

・細胞研究

たとの論文を発表した。